

白杵市

木^き所^{どころ}遺跡
(第3次調査)

県道吉野原犬飼線（千塚工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

大分県立埋蔵文化財センター

木 所 遺 跡 (第3次調査)

県道吉野原犬飼線（千塚工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

大分県立埋蔵文化財センター

序 文

本書は、大分県教育委員会が大分県土木建築部白杵土木事務所の依頼を受けて実施した県道吉野原犬飼線（千塚工区）道路改良事業に伴う木所遺跡の発掘調査報告書です。

木所遺跡は、これまでの発掘調査において縄文時代から中世の集落遺跡として展開していることが分かっています。今回の発掘調査では、木所遺跡における集落の様相について新たな知見を得ることができました。

本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発の一助として活用されれば幸いです。

最後に、発掘調査並びに報告書の刊行にあたり、多大なご支援とご協力をいただきました関係各位に対し、衷心から感謝申し上げます。

令和6年3月31日

大分県立埋蔵文化財センター

所 長 後 藤 晃 一

例 言

- 1 本書は、大分県土木建築部臼杵土木事務所から依頼を受けて実施した県道吉野原犬飼線（千塚工区）道路改良事業に伴う発掘調査の調査報告書である。
- 2 本書は、令和4年度に実施した木所遺跡の発掘調査成果を記載している。
木所遺跡では、過去に臼杵市が発掘調査を実施し、調査回数で区別してきた。調査回数は、1次から2次までを臼杵市教育委員会で実施した調査に付されているため、今回の報告分は3次調査となる。
なお、過去の調査報告書は下記のとおりである。
1次調査、2次調査…「木所遺跡」 臼杵市教育委員会 2012
- 3 発掘調査実施にあたり、発掘作業及び記録作成・現場管理等を支援業務として有限会社九州文化財リサーチに委託した。
- 4 出土遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレース・写真撮影については、株式会社九州文化財総合研究所に委託した（令和5年度）。
- 5 出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県立埋蔵文化財センターに保管している。
- 6 本書で使用する測量座標値は世界測地系で、方位は座標真北である。
- 7 本書の図版作成、執筆は山本哲也が行った。

目 次

第1章 調査の経緯……………	1	第3章 発掘調査の成果……………	4
第1節 調査の経過……………	1	第1節 調査の概要……………	4
第2節 発掘調査の経過……………	1	第2節 遺構と遺物……………	6
第3節 整理作業・報告書作成の経過……………	1	第4章 総括……………	7
第4節 調査組織の構成……………	1	写真図版……………	8
第2章 遺跡の位置と環境……………	2		
第1節 地理的環境……………	2		
第2節 歴史的環境……………	2		

第1章 調査の経緯

第1節 調査の経過

大分県土木建築部白杣土木事務所では、県道吉野原大飼線（千塚工区）道路改良事業を計画している。土木事務所より当該事業の埋蔵文化財確認調査実施依頼があり、事業対象地は確認調査により遺跡の所在することが判明した。確認調査の結果に基づき発掘調査（本調査）を実施することとなった。

第2節 発掘調査の経過

木所遺跡の確認調査は、令和4年4月20日に実施した。結果、一部の地点から遺構が検出され、周辺に遺跡が存在する可能性が高いと判断されたため、令和4年7月20日～8月29日に遺構が検出された地点周辺の本調査を実施した。発掘調査面積は148㎡で、調査の排土置き場の確保から区域1と区域2に分け、折り返して調査を行った。発掘調査ではピット・土坑等の遺構が検出され、木所遺跡における遺構の分布状況の知見を得ることができた。

第3節 整理作業・報告書作成の経過

整理作業は発掘調査の翌年度である令和5年度に行った。整理作業は基本作業と資料作成業務を一括して委託した。

報告書作成に係る遺構、遺物図版作成、原稿執筆編集作業は、調査担当者が行った。発掘調査報告書は令和5年度に刊行した。

第4節 調査組織の構成

木所遺跡の発掘調査および整理作業・発掘調査報告書作成に係る調査組織は、下記のとおりである。

調査主体 大分県教育委員会
調査機関 大分県立埋蔵文化財センター

令和4年度 木所遺跡発掘調査

調査責任者 松本昌浩（大分県立埋蔵文化財センター所長）
調査総括 後藤晃一（大分県立埋蔵文化財センター副所長兼調査第一課長）
調査担当 山本哲也（大分県立埋蔵文化財センター調査第一課主査）

令和5年度 木所遺跡整理作業・報告書作成

調査責任者 後藤晃一（大分県立埋蔵文化財センター所長）
調査総括 染矢和徳（大分県立埋蔵文化財センター調査第一課兼調査第二課長）
調査担当 山本哲也（大分県立埋蔵文化財センター調査第二課主査） 報告書
小堀高史（大分県立埋蔵文化財センター調査第二課主事） 整理作業

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

白杵市は、大分県の東端に位置し、平成17年の市町村合併により、大野郡野津町と白杵市が合併して現在の市域となっている。木所遺跡は白杵市野津町大字烏嶽に所在する。

旧町域は円形状を呈し、南縁部には標高500～600m級の、北・東・西縁部は標高200m級の山地帯を構成している。旧町域のほぼ南北方向に野津川が流れ、その本流と支流沿いには河岸段丘が形成されている。

木所遺跡は、野津院川と大野川の合流点である犬江釜峡から、野津院川に沿って約2km上流に遡った当該河川の右岸に位置する遺跡である。野津院川の河岸段丘上にある上津留地区と、川沿いの低地にあたる下津留地区の二区域に分かれる。野津院川は下津留地区の北・西・南を囲むように蛇行している。平成20・21年度に白杵市教育委員会によって発掘調査(第1次調査・第2次調査)が実施されている。上津留地区(第1次調査)と下津留地区(第2次調査)に遺跡が展開することが分かっている。今回実施した第3次調査は下津留地区にあたる。

第2節 歴史的環境

野津地域における発掘調査で明らかとなった成果について概観する(第1図・第2図)。

旧石器時代の遺跡はこれまでのところ発掘調査がなされていない状況である。

縄文時代の遺跡としては、日当遺跡、生野遺跡、内河野遺跡、原遺跡、広原西遺跡が挙げられる。木所遺跡に近接した遺跡として、野津院川対岸に内河野遺跡が位置する。内河野遺跡では、方形・円形プランの縄文時代後期の堅穴建物が発掘されている。また縄文時代晩期から弥生時代前期の土器が出土しており、長い期間集落として利用されたと考えられる。

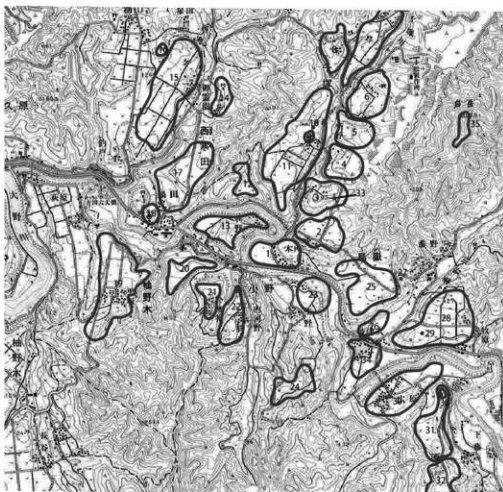
野津地域では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が発掘調査されており、日当遺跡、下藤遺跡が挙げられる。また古墳時代の遺構としては、下藤遺跡にて方形周溝墓が確認されている。

古墳時代前期以降、古代までの遺跡は希薄な状況である。

中世の遺跡は、広原西遺跡、下藤キリシタン墓地、木所遺跡が挙げられる。広原西遺跡では15・16世紀代を中心とする集落跡で、16世紀代の地下式竈が発掘されている。下藤キリシタン墓地は16・17世紀にかけてのキリスト教布教期の墓地であり、発掘調査で南北35m、東西18mの範囲で66基のキリシタン墓、小規模な礎石建物、道路跡が確認された。地上・地下遺構が良く残存しているキリシタン墓地であり、キリスト教受容のあり方を考える上で重要な遺跡であることから、平成30年に国指定史跡を受けた。

木所遺跡では前述したように白杵市教育委員会によって平成20年度に第1次調査、平成21年度に第2次調査が実施されている。いずれの調査区も、今回調査を実施した第3次調査に隣接している。第1次調査では、掘立柱建物・柵状遺構・溝状遺構・土坑・自然流路等が発掘されている。遺物は、縄文土器、中世土師質土器、中国産陶磁器が出土している。第2次調査では、縄文時代の堅穴状遺構、中世の掘立柱建物が検出され、縄文土器、中世土師質土器、中国産陶磁器が出土している。とくに掘立柱建物については12世紀～15世紀にわたって51棟が発掘されており、その規模、配置から武士階層に伴うものと想定している。

以上のように、木所遺跡では縄文時代、中世を中心とした遺跡であり、第3次調査においても第1次・第2次調査の成果から遺構の広がりが想定されたところである。



国土院地形図発行2万5千分の1地形図「大洲」を任意に拡大

- 1木所遺跡 2木所遺跡群 3千人塚遺跡群 4平野南遺跡群 5平野北遺跡群 6安政遺跡群 7千塚・長小野遺跡群 8桑畑遺跡
 9藤原遺跡 10平野堂堂印塔 11千塚西遺跡群 12利野北遺跡 13利野遺跡 14御富園遺跡 15御富園西遺跡群
 16西野由クスバ遺跡 17朝田原遺跡 18朝田原遺跡 19黒坂遺跡 20於無礼西遺跡 21於無礼遺跡 22内河野遺跡 23波津久西遺跡
 24生野遺跡 25波津久北遺跡群 26波津久南遺跡 27佐土原基石衛門墓 28牧原遺跡群 29波津クスバ 30広原西遺跡群
 31広原遺跡 32原遺跡 33千人塚 34波津久遺跡群 35鳥嶽城 36下藤+リシタン墓地

第1図 木所遺跡と周辺の遺跡



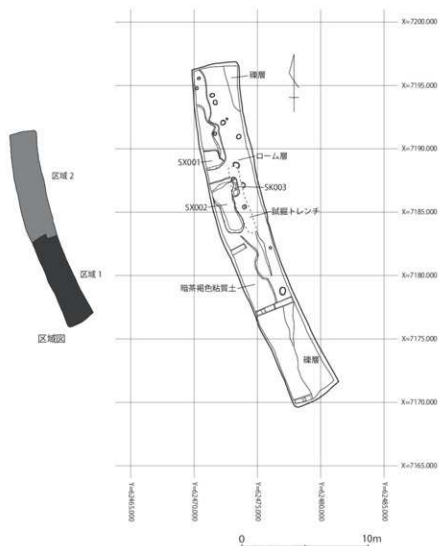
第2図 木所遺跡配置図

第3章 発掘調査の成果

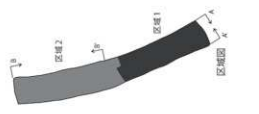
第1節 調査の概要

木所遺跡第3次調査は白杵市野津町大字烏嶽に位置する。発掘調査面積は148㎡で、調査区については、南側に位置する区域1と、北側に位置する区域2に分けて調査を行った（第3図）。調査は区域1、区域2の順で行った。調査区全体の平面形はおおむね長大なトレンチ形を呈する。

調査区の土層について触れる（第4図）。表土を除去すると、調査区北側、南側にて礫層を、調査区中央にてローム層を、調査区西側では暗茶褐色粘質土を構成とする土層を確認した。礫層・暗茶褐色・ローム層とも東から西へ向かって傾斜している。なお、ピット・土坑などの遺構はローム層にて検出している。



第3図 遺構配置図 (1/300)

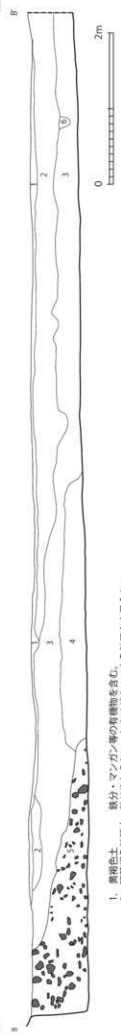


- 1. 灰褐色土
 - 2. 黄褐色土
 - 3. 暗茶褐色砂質土
 - 4. 灰黄褐色粘質土
 - 5. 暗茶褐色粘質土
 - 6. 暗茶褐色粘質土
 - 7. 暗茶褐色粘質土
 - 8. 暗茶褐色粘質土
 - 9. 灰黄褐色粘質土
 - 10. 暗黄褐色粘質土
- 落土 粘分・マンガンまだらに含む。
 径20cm程度の塊が少量混入する。粗砂。
 マンガンがまだらに入る。
 粘りやわらかい。しまりよい。白色粒子少量混入する。
 粘りやわらかい。しまりよい。
 粘りやわらかい。しまりよい。
 粘りやわらかい。しまりよい。
 粘りやわらかい。しまりよい。
 粘りやわらかい。しまりよい。

第4図 土層断面実測図

— 5 —

46,500m



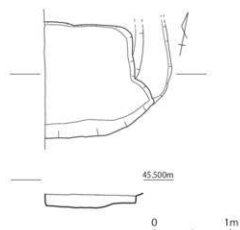
- 1. 黄褐色土
 - 2. 暗茶褐色粘質土
 - 3. 暗茶褐色粘質土
 - 4. 暗茶褐色粘質土
 - 5. 黄褐色砂質土
 - 6. 茶褐色粘質土
- 粘分・マンガン等の有機物を含む。
 粘りやわらかい。しまりがよい。白色粒子を少量含む。
 ローム層。しまりやよい。粘りはやわらかい。
 ローム層。粘りやわらかい。しまりよい。
 径20cm程度の塊が少量混入する。粗砂。
 ビット硬土。しまりやよい。

区域2 調査区東壁土層図 (1/50)

第2節 遺構と遺物

SX001

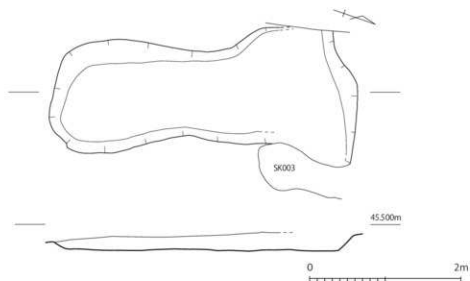
区域2の北側にて検出した遺構である。長軸1.4 m + a × 短軸2.4 m、深さ0.4 mである。平面形は不整形を呈し、床面はおおむね平坦である。SX001の北側では同様の掘り込みが展開していることから、旧地形の落ち込みと考えられる。土器等の遺物は出土していない。



第5図 SX001実測図 (1/50)

SX002

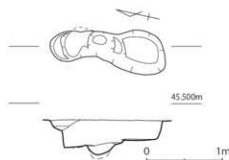
区域2の南側にて検出した遺構である。長軸3.8 m × 短軸1.1 m、深さ0.2 mである。平面形は楕円形を呈する。SX001と同様、旧地形の落ち込みと考えられる。土器等の遺物は出土していない。



第6図 SX002実測図 (1/50)

SK003

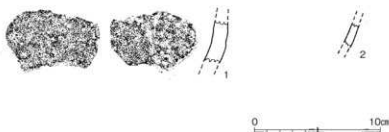
区域2の南側にて検出した遺構である。長軸1.5m×短軸0.6m、深さ0.5mである。平面形は長楕円形を呈する。遺構の北側と南側に平場を設けて、遺構中央に一段下がった掘り込みがみられる。人為的な遺構であるがその性格は不明である。土器等の遺物は出土していない。



第7図 SK003実測図 (1/50)

今回の調査で出土した遺物は僅少であり細片が主体で、図化なしえたのはわずか2点のみにとどまった。遺構からの出土ではなく、調査区の掘り下げ時に出土したものである。

第8図1は縄文土器で厚手である。区域1の掘り下げ時に出土した。2は土師質土器と考えられる破片である。区域2にて掘り下げ時に出土した。いずれの土器も細片であるため詳細な時期等は不明である。



第8図 出土遺物実測図

第4章 総括

今回実施した木所遺跡第3次調査ではピット、土坑、性格不明遺構などの遺構を検出した。とくに調査区北側である区域2を中心にて遺構が展開しており、区域1では遺構分布が希薄な状況である。SX001やSX002など性格不明遺構については調査区北東側の区域2を中心にみられる。土層観察等から人為的よりは旧地形の落ち込みと考えられる。

遺構の時期については、遺物の出土が皆無であるため明らかにできない。隣接する第1次調査・第2次調査ならびに第3次調査の遺構分布状況を考慮すると、今回の調査地点では集落の空地と考えられる。今回の調査で木所遺跡における集落の様相の一端を明らかにすることができた。



木所遺跡 遠景（北から）



木所遺跡 区域2空中写真（東から）



区域1完掘（南から）



区域1南壁土層（北から）



区域2完掘（南から）



区域2北壁土層（南から）



区域2 SK003完掘（南から）



第8図1



第8図2

報告書抄録

ふりがな	きどころいせき だいさんじちょうさ
書名	木所遺跡（第3次調査）
副書名	県道吉野原犬飼線（千塚工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大分県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第29集
編著者名	山本哲也
編集機関	大分県立埋蔵文化財センター
所在地	〒870-0152 大分市牧緑町1-61
発行年月日	2024（令和6）年3月31日

ふりがな	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
木所遺跡	大分県白杵市野津町大字烏嶽	44206	206219	36° 03' 46"	140° 31' 37"	令和4年 7月20日～ 8月29日	148㎡	道路工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺物		特記事項		
木所遺跡	集落跡	縄文時代・中世か		縄文土器、土師質土器				
要約	ローム層を基盤とする面を中心にピット・土坑を検出した。遺物は遺構からの出土が皆無であるため時期が明らかできない。遺構分布状況から今回の調査地点は集落の空閑地と考えられる。							

木所遺跡
(第3次調査)

県道吉野原大飼線(千塚工区)道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
大分県立埋蔵文化財センター調査報告書 第29集

令和6年3月31日

編集・発行 大分県立埋蔵文化財センター
〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61
TEL.097(552)0077

印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ
〒870-0847 大分県大分市広瀬町2-3-21
TEL.097(543)1211
